

<b>オリフルア・トートリルア・ピーチフルア剤 コンフューザー R</b>	<b>取扱メーカー：</b> 協友アグリ，信越化学  <b>原体メーカー：</b> 信越化学
<b>成分：</b> (Z)-8- ドデセニル＝アセタート……………13.2 % (Z)-11- テトラデセニル＝アセタート……………34.1 % (Z)-9- テトラデセニル＝アセタート……………6.9 % 10- メチル- ドデシニル＝アセタート……………0.91 % (Z)-9- ドデセニル＝アセタート……………1.8 % 11- ドデセニル＝アセタート……………0.93 % (Z)-11- テトラデセン- 1- オール……………0.47 % (Z)-13- イコセン-10- オン……………30.6 %	<b>性状：</b> 淡黄色澄明油状液体（ポリエチレンチューブ封入）  <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> 第4類・第3石油類（非水溶性）・危険等級Ⅲ

## 【品目特性】 ……………

- 性フェロモンの特異的作用によって対象害虫の交尾を連続的に阻害し，害虫の発生を抑制する。
- 対象害虫のみに作用し，他の害虫には作用を及ぼさない。
- 殺虫剤に抵抗性を獲得した害虫にも有効。
- 天敵に対する影響は非常に少なく，人畜毒性がほとんどない。
- 有効成分は土壌中の微生物等により水と二酸化炭素に分解するので，土壌汚染の心配がない。
- 有効成分を徐放性の容器（ディスペンサー）に封入しており，効果は長期にわたり持続する。
- 容器（ディスペンサー）がツイントタイプのため，枝などに簡単に巻き付けられる。
- ハマキムシ類の成分をできるだけ天然組成に近付けることにより，効果が安定している。
- 天敵に対して，影響の少ない殺虫剤との防除体系により，天敵等を保護しハダニ等の発生を抑制することから，散布回数の削減が期待できる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

## 【使用上のポイント】 ……………

- 設置時期：越冬世代成虫発生初期に設置する。
- 処理量：通常の場合，本剤を10 a 当り100～120本とし，圃場の立地条件（傾斜），周囲の状況や風向等を考慮にいれて，8割程度を圃場全体にほぼ均等に設置する。残りの2割程度を圃場の周辺部に処理すると効果的である。
- 処理位置：目通りの高さ（約150cm程度）に，なるべく圃場全体に均等になるように取り付ける。但し，周辺部には高い位置に設置する。また，樹高が不均一の場合もなるべく高い位置に設置する。

●残効期間：害虫の種類により異なるが，試験事例から4～5カ月の残効が期待できる。但し，圃場面積，気温，風等の条件により異なる場合がある。

●対象害虫の交尾を阻害し，幼虫の発生密度低下を目的とした交信攪乱剤であるので，成虫の発生初期から出来るだけ大面積で一斉に使用する。

●なるべく直射日光の当たらない位置に取り付ける。

●取付け方法：細い枝では輪にして輪の中に枝を通すか，少し太い枝ではそのまま巻き付けてから，一端を輪の中にくぐらせて引っ張り，固定する。

## 【薬効・薬害等の注意】 ……………

●圃場周辺に無防除園や無防除樹があるか注意し，ある場合はあらかじめ防除を徹底する。また，周辺に無防除のばら科果樹などがある場合は，フェロモン剤を設置する。

●急傾斜地，風の強い地域等本剤の濃度を維持するのが困難な地域では効果が安定しないので設置は見合わせる。

●誘引剤（SEルアー）と異なるので，誘引や発生予察を目的として使用できない。

●外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると，有効成分が揮散するので，密封したまま冷暗所（5℃以下）に保管し，使用直前に開封して使いきる。

●共通注意事項8．適用作物群に関する注意事項を参照。

## 【安全対策上の注意】 ……………

●製剤を直接ふれた手で収穫物を触ると臭いが移るおそれがあるので手を洗う。

●皮膚に対して刺激性があるので，皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には，直ちに石けんでよく洗い落とす。

【適用と使用法】 .....

作物名	使用目的	適用害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期	使用方法
果樹類	交尾阻害	モモシנקイガ ナシヒメシנקイ リンゴコカクモンハマキ ミダレカクモンハマキ リンゴモンハマキ	100 ～ 120 本 (36g／100本製剤)	成虫発生初期 から終期	デイスペンサーを対 象作物の枝に巻き付 け，又は挟み込み設 置する。